

新春挨拶

新年のごあいさつ



稲葉興作

社団法人 日本作業船協会 会長

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、つつがなく新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、早くもミレニアムというお祭り騒ぎから5年の月日が過ぎようとしておりますが、ミレニアムという言葉は、センチュリーが100年を記念するのに対し1000年を記念する言葉であるのは皆様ご承知のことと思います。昨年、思いもかけず旭日大綬章をお受けすることとなり、来し方を想いミレニアムについてのある出来事を思い出しました。

もう十年も前でしょうか、フランスのリヨン工科大学での講演を依頼されました。ごく当たり前の考えで、私は、「2000年の日本の技術的な動向について」という論文を作成し、事前に送付しました。すると、すぐに相手からファックスが入りまして、講演をお願いした意図と全く違うと申し入れがありました。よくよく聞いてみると、相手の意図は、ミレニアム記念の年、すなわちこれから迎える1000年の初年の講演なのだから、この後1000年のことを話して欲しいと言われました。これには、大変驚きました。この先1000年もの未来のことなのですから。

あまりに、壮大な趣旨にどうしたものかと途方にくれている折、たまたまオックスフォード大学から出版された「ミレニアム」という本と出会いました。読んでまた驚きました。欧米には1000年を一つの期間と考えて、それをフォローする本も出されているのです。

そこで、我が国のことを1000年のスパンで振り返らどうか調べてみると、当時の我が国は、平安時代の貴族社会で、紫式部の活躍していた時代なのです。我々日本人には、我々には1000年のスパンでものを考える発想などとも思いもつかないことと改めて感服しました。

ところで、1000年というスパンで物事がどうなるかを考えてみます。

まず、あるものが年率1%で増えるとします。1000年後は1.01の1000乗、というのはなんと20,959、すなわち2万倍にもなります。わずか1%の低金利預貯金でも2万円になる！これが、年率5%という1円もっていれば10万円なるのです。

こうした視点で、人口動向をみてみます。30万年前100万人ぐらいであった場合1万年前に500万人、150年前の1850年頃には12億人、1990年に50億人、2150年には200億人の予想がたちます。たとえば年率1%の伸びとしたら、

1000年後には100兆人にもなります。

また、車の台数の増加においては、20世紀中期を5000万台、20世紀末には5億台とすると、2025年には10億台と予想されます。ですから、それに伴う環境面で大気中のCO₂、メタンガスの増加量などに引き写すと深刻さが良くご理解いただけたらと思います。やはり、この問題を早急に考えなければいけないということになります。

次に、品質管理のことについて述べますと、皆様よくご存知のQC、TQC、ZD、IDそれにVA、VEなど新しい手法が次々とアメリカから導入されました。我々はその手法を学び、取り入れ、品質の改善に努力してきました。ある行動の範囲を少しずつでも新しい、合理的な手法を決めて制限をしておけば品質が保たれ、良い物が恒常的に作れるからです。

このように、わずかな事柄を意識すること、少しの努力を重ねていくことが、1000年の最初の要素となるのです。人間というものは、年ごとのわずかな変化に気付かないものです。たとえば、毎日ほんの少しずつでもおいしい物を食べ過ぎても太ってしまいます。逆にわずかでも節食に心掛ければ体重は増えないし、適度に痩せることにもなります。こうした日々の絶え間ない努力が大切で、続ければ大きな効果を生みます。1000年後とはいえ、その時は我々の子孫の時代に確実に来るのですからその重みを考えねばなりません。節約すべきは節約し、改めるべきは改めなければなりません。ただし、供給過剰な世紀を築きあげた後においては、節約もちょっとした節約ではなく、相当大幅なものでなければなりません。ローマのジョークに節約は美德であるとありますが、この後人類が生き延びるためには豊かさも拡大基調の積分値的ではなく縮小基調の微分値的に生きていかなければなりません。

従来は、ややもすれば最長100年を長期的目標として考えていましたが、今後これに加え、1000年間の推移に対し深い洞察力をもって考察し、順次必要な対応策をたて実行することが望まれます。当協会も、健やかな世紀を紡ぐため、確固たる理念のもと平成16年をスタート致したいと思っておりますので、今後とも何卒ご指導ならびに支援下さいますようお願い申し上げます。

終わりに、新しい年が皆様にとって、明るい輝かしいものになることを衷心より祈念致しまして新年の挨拶と致します。